

第2回村岡新駅周辺地区まちづくり協議会

日時：2023年（令和5年）1月25日（水）10時～12時

場所：藤沢市庁舎 本庁舎 7階 7-1会議室

次 第

1. 開会
2. 議事
 - (1) まちづくりコンセプトブックについて
 - (2) まちづくりコンセプトブックビジョン編の骨格、方向性について
3. その他
4. 閉会

村岡新駅
周辺地区
まちづくり
協議会

【第2回】2023年（令和5年）1月25日

<目次>

1. まちづくりコンセプトブックについて	1
(1) 村岡新駅周辺地区の新たなまちづくり	1
(2) 村岡新駅周辺地区まちづくり方針	1
(3) まちづくりコンセプトブックの目的と役割	2
(4) まちづくりコンセプトブックの構成	2
(5) 対象範囲	2
2. 村岡新駅周辺地区のビジョン（骨格・たたき台）	3
(1) 『将来地区像』を実現するまちのあり方	3
(2) まちづくりのイメージ	4
1) ライフスタイル 暮らし「豊かな暮らしの中で創造性を育もう」	4
2) オープンナレッジ しくみ「まちとしての創造性が発揮される仕組みをつくろう」	5
3) アーバンデザイン かたち 「多様な活動を包含し、創造性を支える空間をつくろう」	6

1. まちづくりコンセプトブックについて

(1) 村岡新駅周辺地区の新たなまちづくり

- ◇本地区は、藤沢市都市マスタープランにおいて、『6つの都市拠点の1つとして、鎌倉深沢地区と連携・一体となり、先進的な研究開発、生産、業務機能が集積した広域に発信する研究開発拠点の形成を目指すとともに、地域サービスの充実を図る』と位置付けています。
- ◇令和3年(2021年)2月、村岡新駅(仮称)の整備を進めることが決定し、令和4年(2022年)3月にまちづくりに関連する都市計画決定・変更を行い、都市基盤の骨格を計画しました。

(2) 村岡新駅周辺地区まちづくり方針

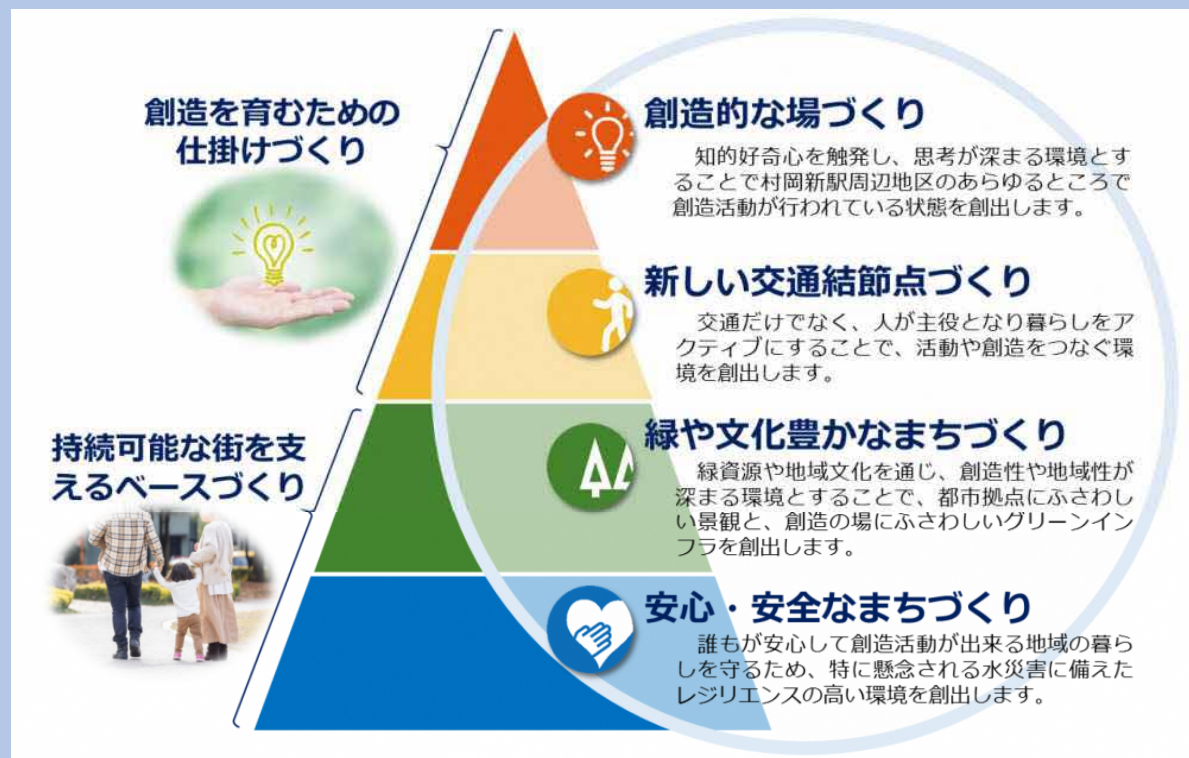
- ◇まちづくりの将来像や方向性など、村岡新駅周辺地区のまちづくりを進める際の「まちのあり方」を示す計画書として、令和3年(2021年)3月に策定しました。
- ◇将来地区像を「尖る創造と広がる創造を生み出す街」と設定し、創造を育み持続可能な街を実現するために設定する4つの重要テーマを定めています。

将来地区像【尖る創造と広がる創造を生み出す街】

村岡新駅を中心に、知的人材の集積を活かし世界に誇る「尖る創造」と地域や市民と共に創り出す「広がる創造」が相互に利用することで好循環を生み出す、新たな研究開発拠点を形成します。

創造を育み持続可能な街を実現するために設定する4つの重要テーマ

まちの基本となる基盤(安心・安全、地域性を生かした緑豊かな環境形成の上に、次世代にふさわしい交通結節点の形成とクリエイティブ人材や交流人口を生み育む創造的な場づくりを進めることで、「尖る創造」と「広がる創造」を実現します。



<村岡の歴史>

- ◇村岡は起伏が激しく、坂の多い土地だったので「重なり合う丘(岡)の群れ」からその地名がついたと伝えられています。
- ◇約一千年前の940年(天慶3)、村岡城主・村岡五郎良文(平良文)が、平氏の守護神である御霊(ごりょう)神社を京都から勧請したことから、この地の歴史がはじまります。
- ◇鎮守府將軍相模守村岡五郎平良文の居城の地であった村岡は村岡郷と呼ばれ、当時関東、東北の政治の中心地でした。その後、鎌倉幕府が成立すると、鎌倉への道沿いにある村岡は、にぎわいを見せました。
- ◇1590年(天正18)の玉縄開城で武家屋敷が増え、江戸時代には藤沢宿の定助郷(じょうすけごう)を務めるようになります。
- ◇明治21年の町村制施行により、川名と柄沢を加えて村岡村となり、昭和16年に藤沢市に合併しました。水田を主とする農耕地と深い谷戸のある土地で、山萇、山百合、野草が見られる山林地帯でしたが、時の変遷とともに市街化への要望が高まり、昭和41年3月からおよそ10年の歳月をかけて区画整理事業が行われて丘が削られ、次第に住宅地が広まりました。
- ◇昭和44年に現在の村岡新駅周辺地区に湘南貨物駅が開設されて、車扱による貨物取扱が開始され、昭和60年に廃止されました。

<立地特性>

- ◇本地区は、本市の東部に位置し、西側は藤沢駅周辺地区に、東側は柏尾川を挟んで鎌倉深沢地区に近接する約7.3haの地区です。
- ◇本地区の中央にJR東海道本線が通っており、JR藤沢駅からは約2.0km、大船駅から約2.6kmに位置しています。
- ◇周辺には、神戸製鋼所や湘南ヘルスイノベーションパーク等の産業施設が立地し、戸建住宅地、宮前御霊神社等の地域資源や緑地があります。
- ◇本地区の南東部には、鎌倉市深沢地区において、湘南モノレール湘南深沢駅周辺の街づくりが進められており、本地区と一体となって、村岡・深沢地区としてヘルスイノベーション最先端拠点の形成が進められていきます。



<新駅整備・土地区画整理事業の概要>

- ◇令和3年(2021年)2月、神奈川県、鎌倉市、本市及びJR東日本で『東海道本線大船・藤沢間村岡新駅(仮称)設置に関する覚書』の締結により、新駅整備を進めることとなりました。
- ◇令和4年(2022年)3月に、土地区画整理事業、地区計画(目標・方針のみ)、駅前広場・道路、公園の都市計画決定・変更を行いました。



1.まちづくりコンセプトブックについて

(3) まちづくりコンセプトブックの目的と役割

◇将来地区像「尖る創造と広がる創造を生み出す街」の実現に向けて

村岡新駅周辺地区では、知的人材の集積を活かし世界に誇る「尖る創造」と地域や市民と共に創り出す「広がる創造」が相互に作用することで好循環を生み出す、新たな研究開発拠点を目指しています。

様々な人が活動し、関わり合いながら「創造を生み出す街」を実現していくために最も重要なのは、この新たなまちのあり方について、市民・地権者・事業者など、まちに関係する人々の共感を得ることです。

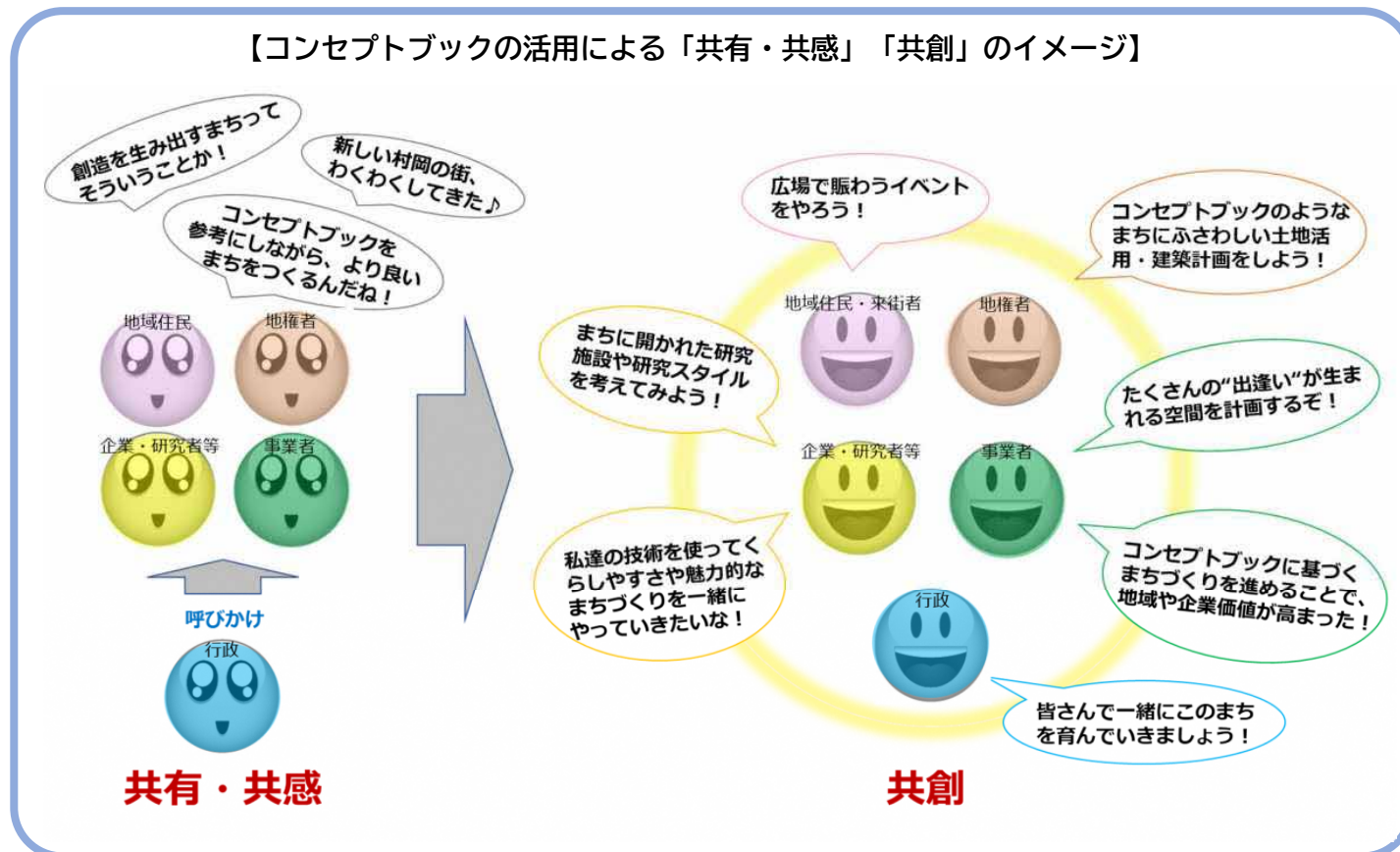
◇まちづくりの新たな進め方

従来を進め方では、ハード整備を中心とした事業計画が先行して進められてきました。しかし、このまちづくりでは、“村岡らしさ”をより高める発想・提案を計画に取り入れ、実現につながるように、新たな方法で進めていきます。

そのため、「まちづくりコンセプトブック」を作成し、その中で、まちづくりにおいて重視することを整理しました。そして、事業計画の前の段階から、これをまちづくりの様々な関係者と「共有」し「共感」を生み出していく活動を進めていき、具体的なまちの計画・整備や成長・発展の実現に向けての「共創」を促していきます。

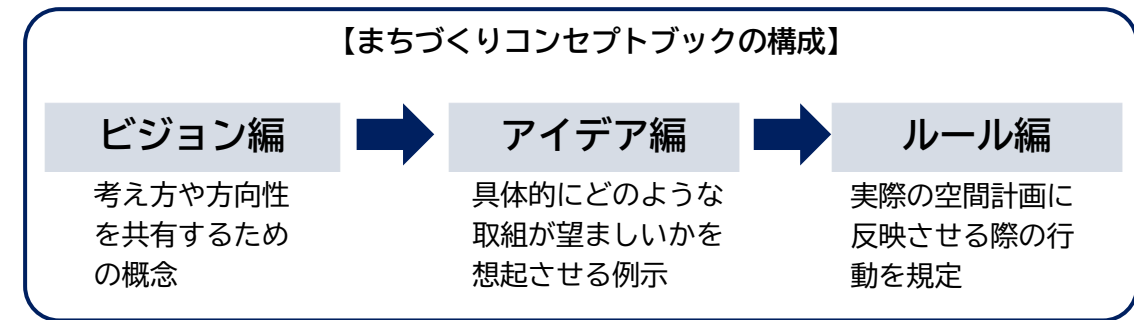
◇「まちづくりコンセプトブック」の使い方

本コンセプトブックを、様々な関係者と「共有・共感」した上で、将来地区像の実現に向けて「共創」する際に各々の関係者がコンセプトブックを基に取り組み、活用していきます。



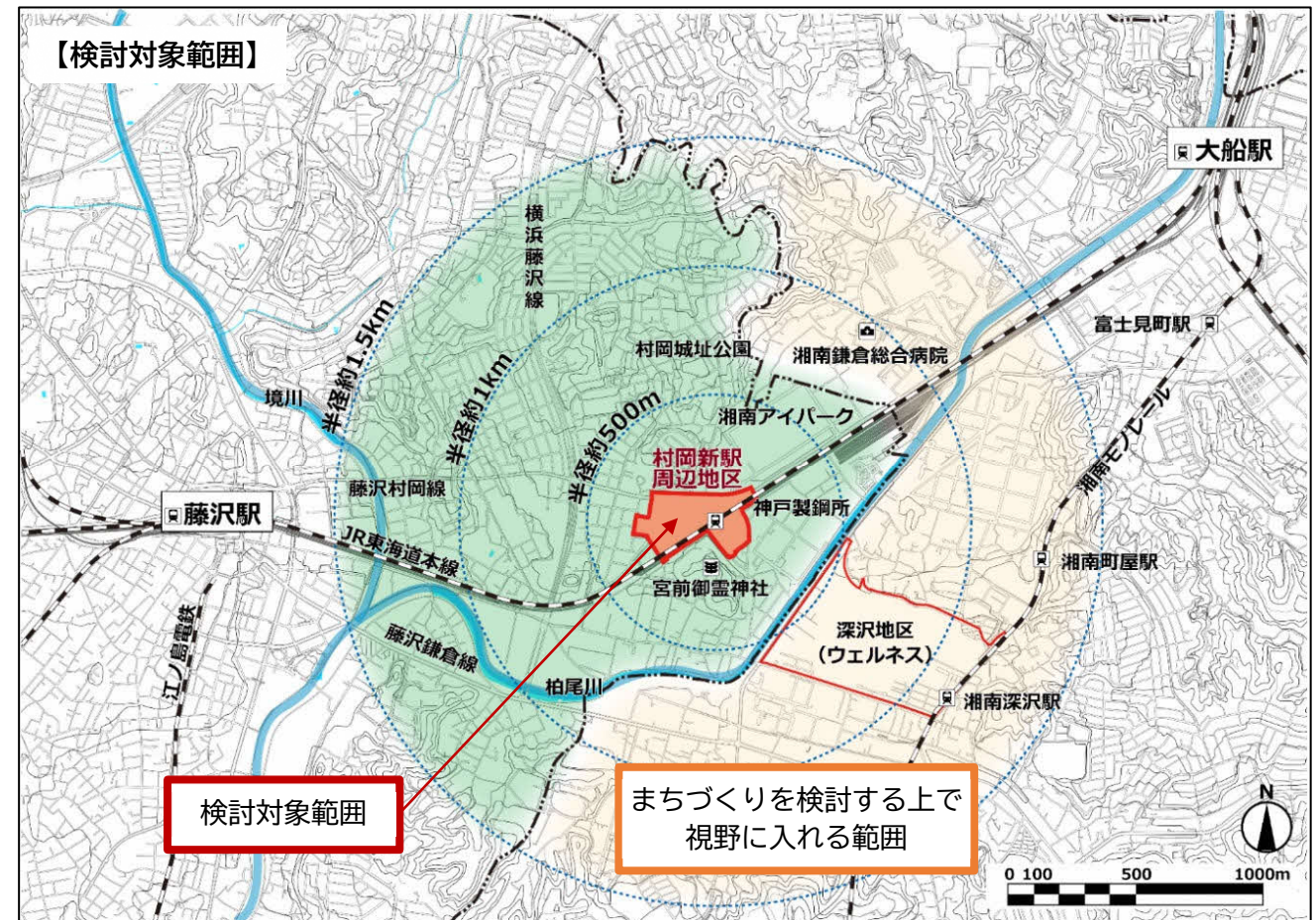
(4) まちづくりコンセプトブックの構成

◇考え方や方向性を共有するために概念として整理した「ビジョン編」、具体的にどのような取組が望ましいかを想起させる「アイデア編」、土地区画整理事業地内において実際に空間計画に反映させる際の行動を規定する「ルール編」の3部で構成します。



(5) 対象範囲

◇まちづくりコンセプトブックは、村岡新駅周辺地区を中心に、市内外の半径 1.5km 圏程度を視野に入れ、当該地区のみならず、周辺との連携や波及効果を視野に入れて検討するものとします。



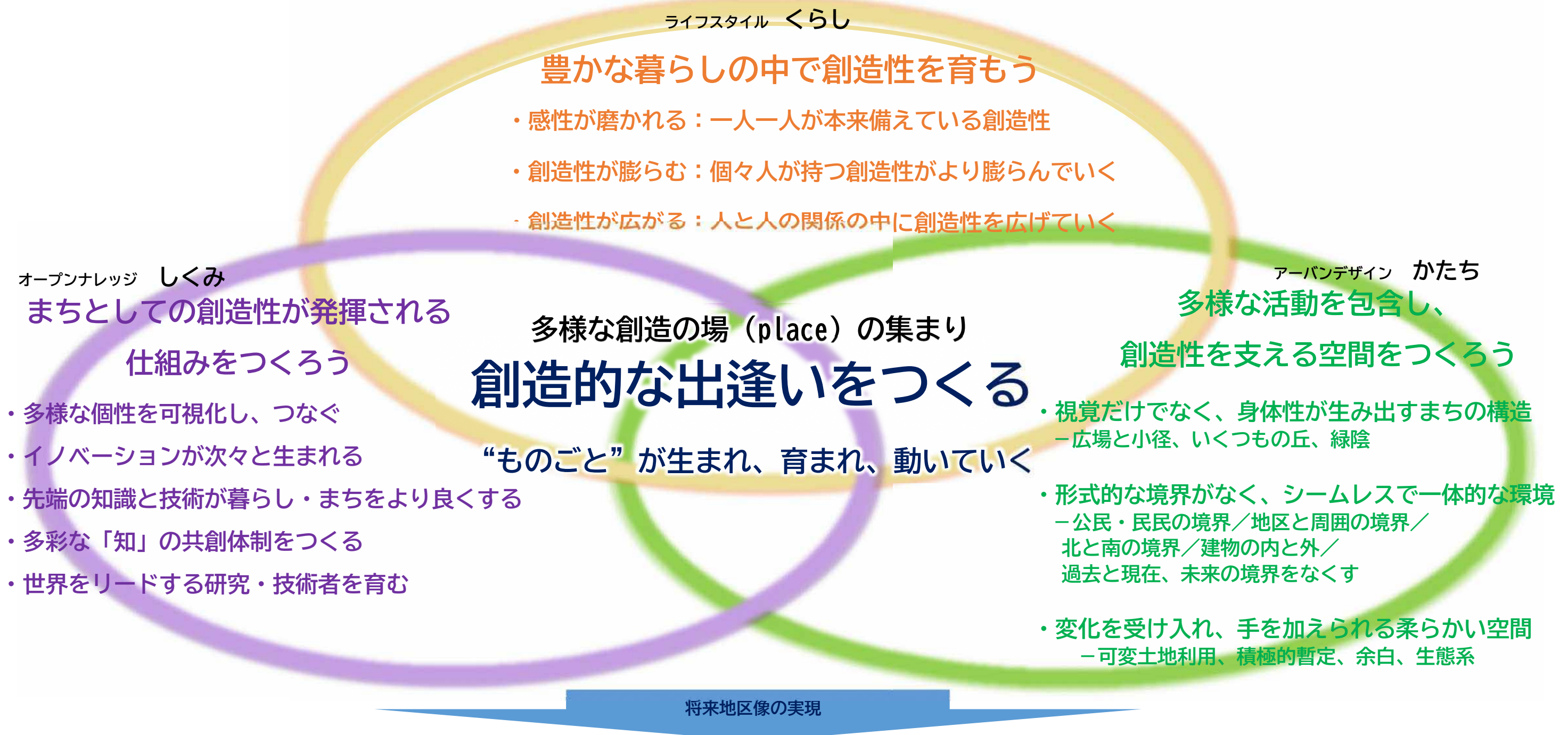
2. 村岡新駅周辺地区のビジョン

(1) 『将来地区像』を実現するまちのあり方

村岡新駅周辺地区で目指す「創造性」とは、「人と人」、「人と場」、「取組と取組」が出逢い、相互に反応し合うことで生まれるものであり、その小さな「出逢い」を重ねていくことが「尖る創造/広がる創造」をつくる上で重要な要となります。

そのため、出逢いが生まれる「場」・「仕掛け」・「空間」などを重層的に展開させていくことで、新しいものごとが生まれ、育まれ、動いていくまちをつくります。

『将来地区像』を実現するまちのあり方



4つの重要テーマ



創造的な場づくり



新しい交通結節点づくり



緑や文化豊かなまちづくり



安心・安全なまちづくり

将来地区像【尖る創造と広がる創造を生み出す街】

(2) まちづくりのイメージ

1) ライフスタイル 暮らし 「豊かな暮らしの中で創造性を育もう」

概念図…イラストについては、今後統一性を図っていく予定です

村岡の豊かな暮らしの中で個の感性が磨かれ、やがて個の感性は村岡の時間（とき）の中で創造性として生まれ膨らんでいき、新たな「人」や「場」「コト」との出会いを通じて、さらに創造性が広がっていきます。

<概念図>

季節感を感じられる環境の中で育まれる感性・・・

ものづくりなどを通じて養われる感性・・・



自分の時間・スピードにあった
豊かな移動環境の中で磨かれる感性・・・



村岡の自然を感じながら育む創造・・・



自分のお気に入りの場所で
考え膨らむ創造・・・



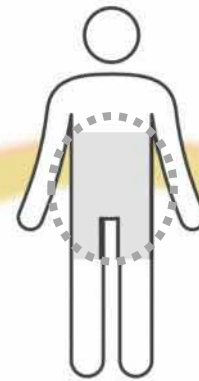
心地よい空間でのリフレッシュ
タイムにふっとひらめく創造・・・



偶然の出会いから膨らむ創造・・・



①感性が磨かれる
～ひとりひとりが備えている本来の創造性～



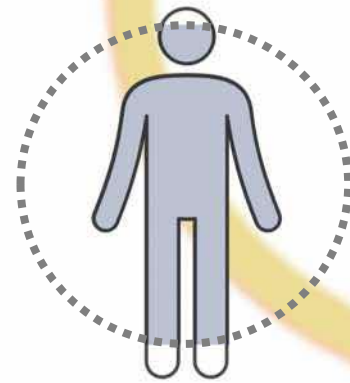
マーケットなどの日常の小さな変化により磨かれる感性・・・



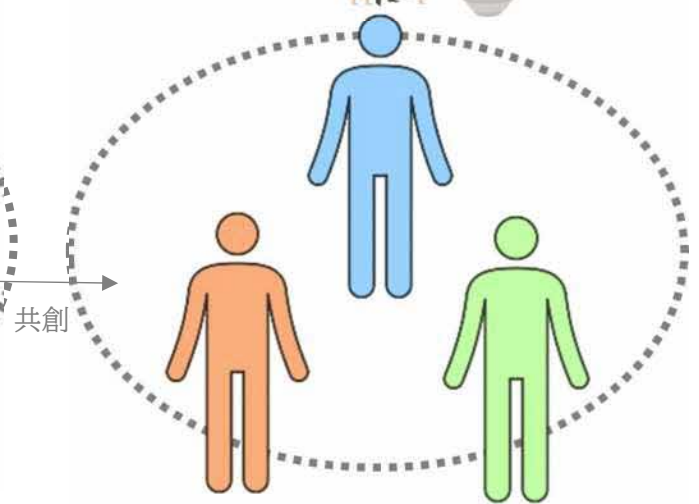
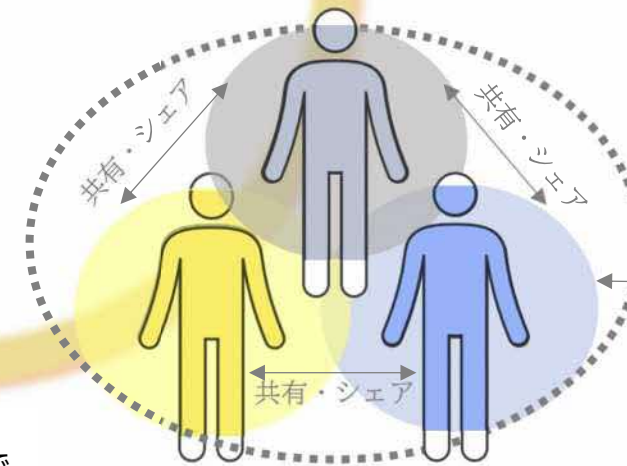
多様な人々との共創することで広がる創造・・・



②創造性が膨らむ
～ひとりひとりが育む創造性～



③創造性が広がる
～ともに育む創造性～



企業の研究成果などに触れることで
好奇心が刺激され膨らむ創造・・・

異種・多業種の人たちとの
新たな出会い・交流から広がる創造・・・



2) オープンナレッジ しゅくみ 「まちとしての創造性が発揮される仕組みをつくろう」

地域住民、ワーカー（企業・研究者等）、来街者など様々な人材が持つ「個性」（知識・技術・技能等）をまちに開き、つなぐことで創造を生み出し、人々の暮らし、まちや社会をより良くしていく仕組みをつくります。

<概念図>

人や企業などの様々な「個」がつながり、
新たな創造を生み出し、増えていくイメージ
(今後よりわかりやすく作成します)

①多様な個性を可視化し、つなぐ

～様々な人材・企業等が持つ知識・技術を「見える化」し、
つなげる場や機会をつくる～

(例)

- ・地域住民のもつ「知識」「特技」などを集めて「見える化」する
- ・地域住民や来街者が科学技術に興味を持てるような展示やイベント
- ・知識や技術など「創造」のタネになる情報をオープンにする
- ・企業や研究機関どうしの連携のきっかけになる展示やイベント
- ・技術や研究をわかりやすく紹介してくれる人 など



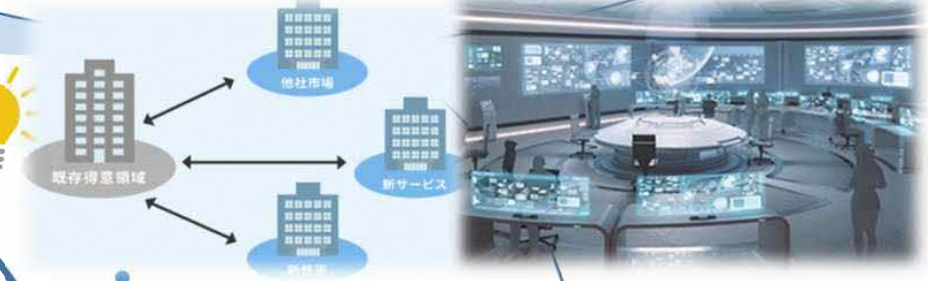
イメージ

②イノベーションが次々と生まれる

～知の集積・連携により地域・社会へ挑戦する～

(例)

- ・企業の研究開発部門、ベンチャー、研究機関の集積
- ・コワーキングスペース
- ・イノベーション・ラボ
- ・サービスアパートメント（国内外の研究者等の長期滞在施設）
- ・国内外の企業、研究者、投資家とつながるデジタルプラットフォーム など



イメージ

③先端の知識と技術が暮らし・まちをより良くする

～最先端の知識と技術で課題を解決する～

(例)

- ・地域住民等が実証実験に参加
- ・地域住民等が企業の試作品を利用し、意見を伝え、製品を改善していく仕組み
- ・健康、医療、環境、防災など、暮らしやまちづくりの幅広い分野に最先端技術を導入 など



イメージ

⑤世界をリードする研究・技術者を育む

～未来をつくる人材を育成する～

(例)

- ・子どもをはじめ、地域住民が科学に親しみ学べる場や機会
- ・未来の研究・技術者を育てる教育環境（中高一貫校、高等専門学校、大学等） など



イメージ

④多彩な「知」の共創体制をつくる

～相互連携による社会関係資本を広げる～

(例)

- ・地域住民、企業、研究機関、行政等の連携体制
- ・まちづくりを推進する活動組織 など



イメージ

3) アーバンデザイン かたち 「多様な活動を包含し、創造性を支える空間をつくろう」

これまで育んできた地形や自然、歴史、文化の延長線上に多様な活動を包含し、創造性を支える空間を創出するため、村岡スタイルとして未来へ紡いでいくことを目指します。

「多様な活動を包含し、創造性を支える空間」とは <概念>

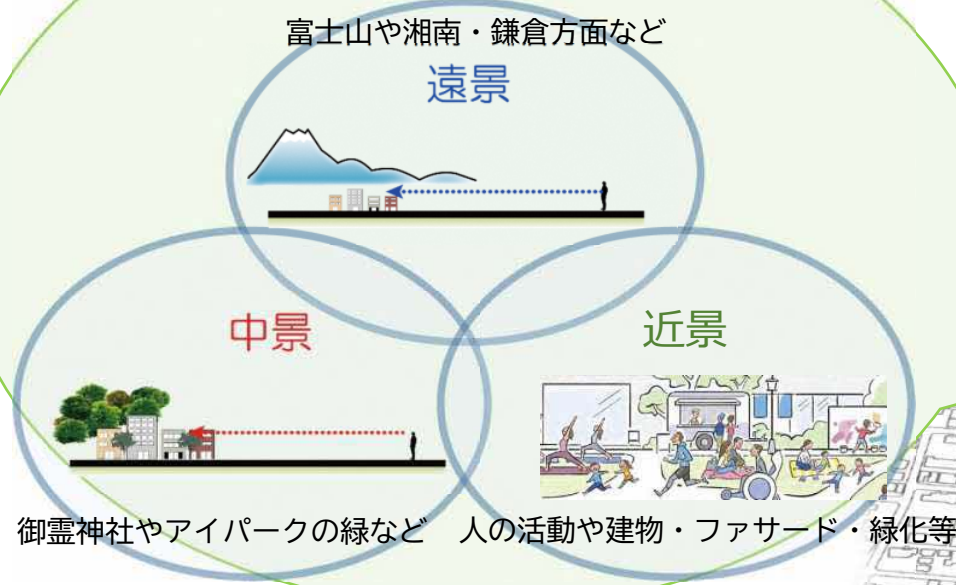
- ①視覚だけでなく、身体性が生み出すまちの構造
- ②形式的な境界がなく、シームレスで一体的な環境
- ③変化を受け入れ、手を加えられる柔らかい空間

- 広場と小径、いくつもの丘、緑陰
- 公民・民衆の境界 / 地区と周囲の境界 / 北と南の境界 / 建物の内と外 / 過去と現在、未来の境界をなくす
- 可変土地利用、積極的暫定、余白、生態系

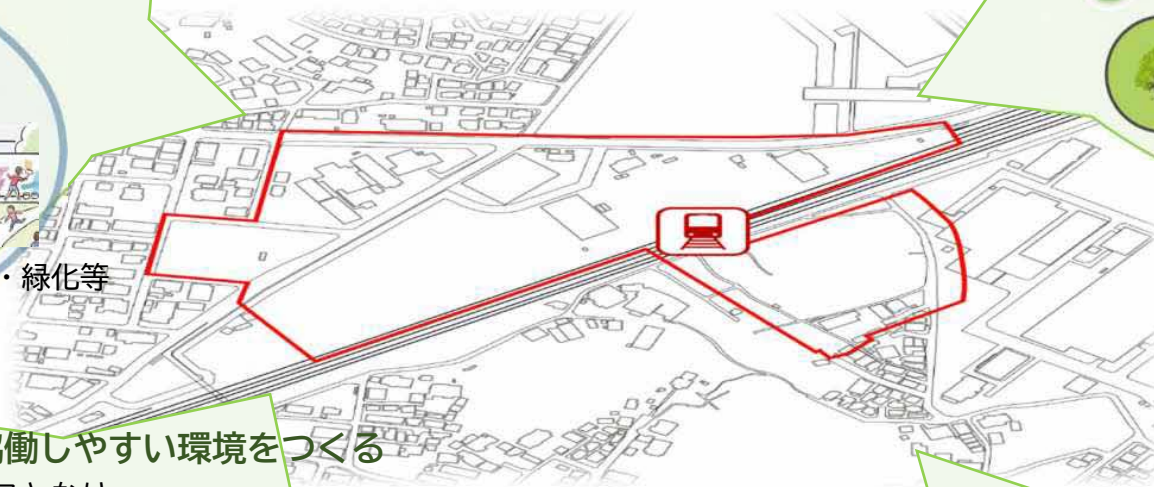
取組例

創造性を育むための五感への刺激として視覚への満足度を満たす

～遠景（山並み等）・中景（御霊神社等）・近景（人の活動等）を楽しめる空間づくり～

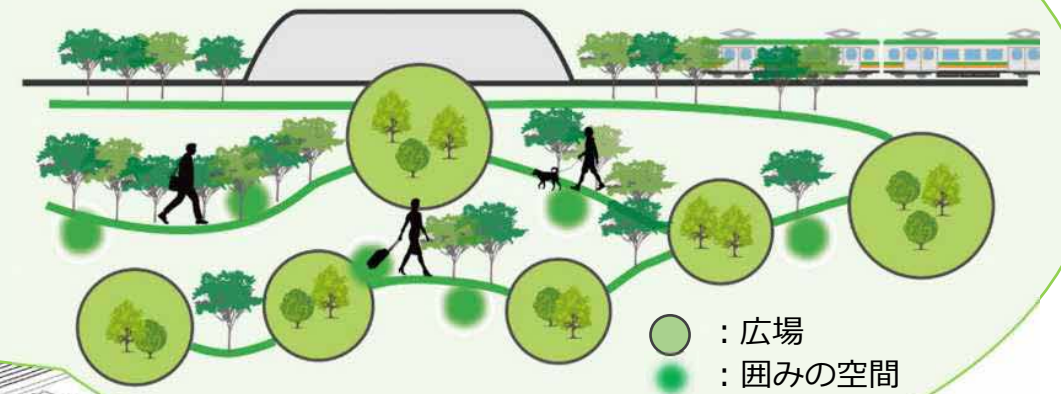


概念図…地区の下図を含め、今後はよりイメージしやすい図面を作成する予定です



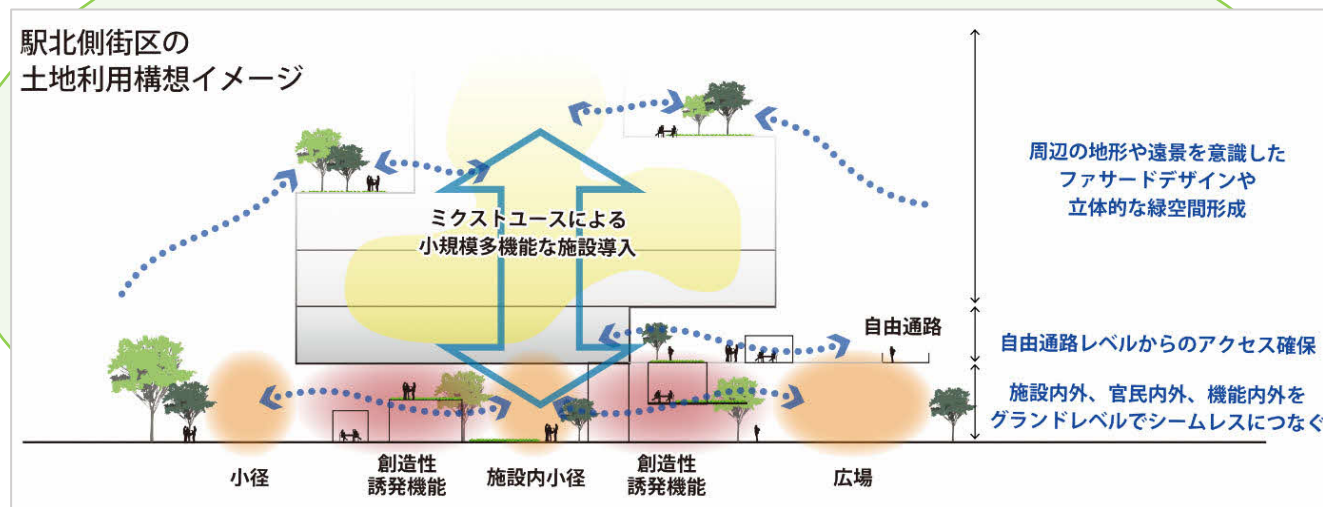
小径と広場が、考えを深め創造する場となる仕掛けをつくる

～小径 (Path) と広場 (Node) が図となる空間づくり～



移動や活動の自由度を高くして、人と出会い協働しやすい環境をつくる

～官民・民衆の境界の無いシームレスとなり、人々のクリエイティブな活動が小径へ、広場へ、まちへと広がる空間づくり～



開発で失われた群れとなった丘を、未来に語りつぐ村岡の姿として再生する

～昔の地形を彷彿させるような丘を点在させる空間を創る～



■協議会等のご意見と「将来地区像を実現するまちのあり方」との関連

●：ご意見 (協)：まちづくり協議会 (有) 有識者会議

- 駅周辺地区のまちづくりによってさらに周りの人がより豊かになっていくことが必要。(協)
- 新駅が移動の手段としてだけでなく、周辺の環境や新しいコミュニティの作り方に貢献できるか、外から来る人との繋がりをどう生まれさせるかが重要。(協)
- コミュニティや知識・技術が混ざり合ってまちにしみ出すことが、広がる創造だと思う。(協)
- 多様な知識・技能・経験やこだわり等を持った人同士が出会うことに着目してはどうか。創造的な場づくりを中心において尖らせた方が良いのでは。(有)
- 自分が持っている専門知識・得意分野などをシェアできるような場があるだけでも、創造的に自分を変えたり、生活を変えていくことが、きっと起こるのだろう。(有)
- 創造性を育むためには、まずは1人で考える時間・空間が必要であり、次のステップとして、専門に関わらず多様なこだわりを持った人達と交流したり、一緒に何かするなどがあり、これらのことが、この街に開かれた状態でどれだけ起きるかだと思う。(有)
- 開かれた場で、偶然的な出会いから、色々なものが生まれていくというのは、簡単ではなく街として仕掛けや計画で少しそこを応援することが必要になる。(有)
- 創造的な出会いにより新しいものが生まれ育まれ動いていくまち、場である、というように流れや動きが込められるとよい。変化が起きていくというのがここでの創造的だと思う。(有)

ライフスタイル 暮らし

<『将来地区像』を実現するまちのあり方>

オープンナレッジ しゅくみ

まちとしての創造性が発揮される 仕組みをつくろう

- 多様な個性を可視化し、つなぐ
- イノベーションが次々と生まれる
- 先端の知識と技術が暮らし・まちをより良くする
- 多彩な「知」の共創体制をつくる
- 世界をリードする研究・技術者を育む

豊かな暮らしの中で創造性を育もう

- 感性が磨かれる：一人一人が本来備えている創造性
- 創造性が膨らむ：個々人が持つ創造性がより膨らんでいく
- 創造性が広がる：人と人の関係の中に創造性を広げていく

多様な創造の場 (place) の集まり

創造的な出会いをつくる

～ “ものごと” が生まれ、育まれ、動いていく～

アーバンデザイン かたち

多様な活動を包含し、 創造性を支える空間をつくろう

- 視覚だけでなく、身体性が生み出すまちの構造
- 広場と小径、いくつもの丘、緑陰
- 形式的な境界がなく、シームレスで一体的な環境
- 公民・民民の境界/地区と周囲の境界/北と南の境界/建物の内と外/過去と現在、未来の境界をなくす
- 変化を受け入れ、手を加えられる柔らかい空間
- 可変土地利用、積極的暫定、余白、生態系

- まちづくりの中で地域課題が解決できるとよい。(協)
- 海外の方が来るようなグローバルの視点も必要。(協)
- 村岡から未来の科学者が生まれる環境になるとよい。(協)
- 防災・減災の面で企業がどう貢献できるか考えたい。(協)
- 企業が持つ技術、人材が持つ技能など地域全体の個々の特技を活かして、創造性を生み出す街になるとよい。(有)
- 「ここはどうする？」となった時に「村岡でミーティングしよう」となるような場所に。(有)
- 世界にネットワークを持つ複数のコワーキングスペース、研究者のシェアハウス等がたくさんある、何かおもしろいことが起きる場所、広場や公園に行けばおもしろい人が議論しているとか、といった場所になれば村岡に行こうと思うのでは。(有)
- どこで何をやってるかワクワクするタネの可視化や、色々な人(住んでる人とか)の「知」が交ざることで創造が生まれるので、人材の「知」を可視化する方法を考えたい。(有)
- より良く生きる、未来を創る、暮らしをどう良くするかが社会をよくすることに繋がる、といったテーマについて、その探求と形作ることをここで皆が一緒にできるとよい。(有)

- 創造する時間が豊かにあることが街の特徴であり、その時間や場をイメージできる形にしていくことが重要。(有)
- 村岡は高齢者が増え、起伏のある地形なので、地域を回るバスや次世代自動車など交通が便利になるとよい。(協)
- 開かれた場所での偶然的な出会い、人にシェアできるような場が、創造的に自分を変えたり生活を変えていくことを起こすだろう。(有)
- 街のオープンスペースは居住者だけでなく、働いている人たちの職場の屋外空間としても考えるべき。(有)
- これからは「都市的な暮らし」よりも「自然的な暮らし」を重視する人が増える。(有)
- 毎日異なる体験や小さな変化があることが、街の中での暮らしをより創造的・魅力的にするのではないかと。(有)
- 様々な情報を得られるという意味でライブラリー、街で試行錯誤や実験を行うラボも創造につながる。(有)
- 歩く心地よさ、住民や来街者の移動手度も大事。(有)

- 駅南北をどう繋ぐか、回遊性の高いシームレスな繋がりをどうつくるかが重要。(協)
- 時代に応じた景観、街の価値として、環境や建物のボリューム(高さ、容積率・建ぺい率)は重要。(協)
- シンボルロード、神社等の資源を取り入れることが重要。(協)
- 先にハードを決めるのではなく、使う際のルールから決めて、時間帯別の使い方か、柔軟な設計ができるとよい(有)
- 多様な性質・特徴を持つヒューマンスケール・スモールスケールの空間が連鎖することが街の奥行き感につながる。(有)
- 人の活動の連続性や創造性を高めるため、遠景・中景・近景をそれぞれ意識した空間づくりが必要。(有)
- 佇んだり、回遊するためには滞留空間(たまり)、小径のつくり方が重要。(有)
- 「重なり合う丘の群れ」という村岡の由来を活かして、昔の地形を思いつつ、丘(のイメージ)を創ってはどうか。(有)